

2026
3月13日号211
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会 〒963-0201 郡山市大槻町字原ノ町3-1 TEL/FAX 024(954)7595

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

何時だって挑戦者



会長 鈴木 雅博

現在、2026年ミラノ・コルティナ冬季オリンピックを観戦しながらこの原稿を書いています。水上や雪上で繰り広げられる熱戦はどれも目が離せず、選手たちの一瞬一瞬の動きに胸が高鳴ります。新たに加わった競技では、これまで触れる機会の少なかったスポーツの魅力を知り、世界の広さと多様性を改めて実感しました。特に若い世代の選手たちが堂々と世界に挑む姿には、感動とともに大きな刺激を受けています。彼らの努力と情熱、その裏にある日々の鍛錬を思うと、自然と背筋が伸びる思いです。大会はまだ続いており、これからの競技にも期待が高まりますが、すべてのアスリートに心から敬意と声援を送りたいと思います。

国内に目を向けると、2月の衆議院選挙では高市総理が歴史的な圧勝を収め、新たな政治の舵取りが始まりました。技師会は政治的に中立ですので、会長としてではなく一個人として、この出来事に触れたいと思います。私たちの仲間であり、診療放射線技師としての経験を持つ哇元代議士が再び国政に戻ったことは、現場の声が政策に反映される大きな機会です。診療放射線技師の地位向上や職域拡大に向けた後押しとなることを期待しています。

一方、2026年度の診療報酬改定に向けた議論が進む中、私たちに直接関わる項目は依然として少なく、専門性や貢献が十分に評価されているとは言えません。AIや画像診断技術の進化で業務は高度化しているにもかかわらず、制度が追いついていない現状は、医療の質にも影響しかねない重要な課題です。この状況を変えるには、私たち自身が積極的に声を上げ、専門職としての価値を社会に発信していく必要があります。チーム医療への参画、地域包括ケアでの役割拡大、予防医療への貢献など、果たせる役割は多岐にわたります。制度に反映させるには、エビデンスに基づく提言と国民への理解促進が不可欠です。

また、次世代を担う若手技師の育成も重要です。ミラノ・コルティナで活躍する若きメダリストたちが示すように、未来を切り拓くのは常に新しい力です。教育体制の充実やキャリアパスの多様化を進め、魅力ある職業像を築いていかねばなりません。

この放技ニュースが届くころにはオリンピックは閉幕していますが、日本がどれだけのメダルを獲得したのか楽しみにしています。選手たちの姿に励まされながら、私たちもそれぞれの現場で力を発揮し、未来へ向かって着実に歩みを進めていきたいと思っています。

福島県立医科大学 保健科学部 診療放射線科学科 だより

福島県立医科大学保健科学部 ニュースレターの紹介

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 高橋 規之

いつも福島県立医科大学保健科学部の活動にご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。今回は、福島県立医科大学保健科学部が年2回発行している「ニュースレター」について、紹介させていただきます。本ニュースレターは、本学部の教育・研究活動、そして学生たちの学びや成長の様子を、地域の皆様にお伝えする大切な機会と捉えています。

保健科学部は、地域医療の第一線で活躍できる、確かな知識と技術、そして豊かな人間性を兼ね備えた医療技術者の育成を目指しています。理学療法学、作業療法学、診療放射線科学、臨床検査学の4つの専門分野において、経験豊富な教員陣が学生一人ひとりに寄り添い、質の高い教育を提供しています。附属病院での充実した臨床実習も、学生たちが実践力を身につける上で不可欠な学びの場となっています。ここでは、昨年9月に発行したVol.08を例にしてニュースレターの内容を紹介します。

この春に執り行われた学位授与式や入学式の様子をはじめ、各学科の教育・研究における最新の取り組みをご紹介します。例えば、理学療法学科では歩行分析に関する研究、作業療法学科では「地域作業療法学実習」における単位バンク制度の導入、診療放射線科学科では核医学分野での薬剤開発、臨床検査学科では感染症やがんなどの疾患に関する基礎・臨床応用研究など、多岐にわたる活動を掲載しております。また、オープンキャンパスでの活気ある様子や、学生たちが日々の学習や実習を通してどのように成長し、地域の方々と交流を深めているかについても、写真とともに詳しく伝えています。

診療放射線科学科のページを紹介します。「研究の最前線」では、核医学分野の長谷川研究室での診断・治療に用いる薬剤の開発について紹介しています。病変部に集まる薬剤を合成し、診断に活用できるよう、簡便な合成法や安全性評価法の確立を目指す研究を進めています。「活発な学科交流」では、新2年生が企画・運営した新入生学科交流会での、上級生と新入生の情報交換の様子を紹介しています。学年を超えた交流は、新入生の大学生活への適応を促す貴重な機会となっています。「実践的な学び」では、4年生が参加したJRC2025総会学術大会での様子を報告して

います。最新の研究発表を聴講したり、簡易線量計作成セミナーで実践的な技術を学んだりすることで、専門知識を深めました。さらに4年生は、附属病院をはじめ福島県内の医療機関で約3ヶ月半にわたる臨床実習を行いました。現場の先輩方から直接指導を受け、グループ単位で実践的な経験を積み貴重な経験を得ることができました。「大学院でさらなる高みへ」では、2025年4月に開設された大学院保健科学研究科に触れています。診療放射線科学領域で社会人を含む8名の修士課程学生が研究に取り組んでいます。医学画像情報工学、医用画像科学、核医科学、放射線治療科学、医学物理の5分野で、専門性の高い講義と研究指導が行われ、将来の研究者、教育者、あるいは臨床現場の指導者となる人材の育成を目指しています。

このニュースレターが、地域の皆様と本学部との連携をさらに深め、地域医療の未来を担うより多くの若者が学べるように広報に努めてまいります。今後とも、福島県立医科大学保健科学部への変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。興味をお持ちいただけましたら、ぜひ一度、本学のウェブサイトにありますNews Letterをご覧ください。





会長 「オンレコ」

会長 鈴木 雅博

- ① 1月26日(月)に第4回福島県原子力防災通信連絡訓練が行われました。
- ② 1月27日(火)に公益法人の事業運営実態を確認する観点から県による立入検査を受けました。こちらは概ね3年を目途に実施することになっており、公式な結果報告はまだですが、口頭にて概ね問題ないとの回答を受けております。
- ③ 2月1日(日)第2回東北地域会長会議(教育委員合同会議)が盛岡で行われました。第42回日本診療放射線技師学術大会が9月11日～13日に山形国際交流プラザ(山形ビッグウイング)で、第16回東北放射線医療技術学術大会が10月3日～4日に岩手県盛岡市のいわて県民情報交流センター(キオクシアアイーナ)で開催予定です。
- ④ 2月18日(水)に第5回執行部会ならびに第6回理事会が行われ、来年度の事業計画ならびに予算について審議いたしました。
- ⑤ 日本手術支援画像技術学会(Japanese Society of Surgical support Imaging Technology: JSSIT)がJARTの承認学会として承認されました。これまで分科会として活動していた画像等手術支援分科会は日本手術支援画像技術学会に継承されていきます。
- ⑥ 会費未納除籍者・未納退会者に対する債権回収についてはJARTが代表して弁護士事務所に業務委託していますのでご承知おきください。

地区だより

県南地区

「令和7年度 県南地区新年勉強会」開催

令和8年1月31日（土）、郡山駅前ビックアイにて県南地区新年勉強会が開催されました。今回は「DRLs2025」と「医療安全」をテーマとして開催され、加えて若手スタッフ発表として、学生時代の研究成果の発表がありました。

「DRLs2025の概要～改めて学び直そう～」では、新たな診断参考レベルの変更点を詳しく説明いただき、「県南地区施設の線量比較」では、事前に県南各施設で実施された調査データを基に茨城県診療放射線技師会が提供する線量計算ソフト「EPD (Estimation of patient Dose in X-ray examination)」を用いた各施設の線量比較が示され、施設間で線量のばらつきがあることが分かり、自施設での線量を見つめ直す良い機会となりました。

「県内施設の医療安全の体制・取り組みについて」では、総合南東北病院、星総合病院、白河厚生総合病院の3施設でのインシデント発生時の対応、取り組み等が示され、医療安全の重要性

を再確認する事ができました。また、ディスカッションでは活発な発言があり、大いに盛り上がりました。

若手スタッフ発表では、星総合病院 溝井綾乃さん、水野世琉さんから「新生児における照射野を変更した際の線量評価」、「X線CT検査における金属アーチファクト低減処理がもたらす画質改善の評価」を発表していただきました。どちらの発表も完成度が高く大変興味深い内容でした。

当日は会員、非会員合わせて35名の参加者がありました。今後、更に参加者に興味をもっていただける内容を検討していきたいと考えています。皆様のご参加よろしくお願いたします。

(関根)



浜通地区

「令和7年度 相双地区画像勉強会」開催

令和8年2月6日（金）相馬市総合福祉センターはまなす館にて令和7年度相双地区画像勉強会が開催され、参加者は24名の方が参加されました。当番世話人の久米本祐樹氏の挨拶から始まり、会員話題提供として地域の3病院が「乳がん検診の実績報告」し、教育講演として「FPD時代の線量と画質の最適化」東北大学病院 診療技術部 診療技術部長 特任教授 診療放射線技師 齋政博先生に御講演いただきました。マンモグラフィの技術変遷から線量・画質の最適

化まで多岐にわたる情報を共有することができました。参加者にとっても非常に有意義な時間となりました。

(佐川)





お知らせ

現在「JARTの勤務先を変更したが、県のニュースが届かない」「施設ごとの会員数が合わない」等の連絡をいただいております。JART事務局へ確認したところ、JART個人情報変更（勤務先・苗字等の変更）が県に連絡が届かない状態になっているとのことでした。JART事務局へは改善を要望しております。2025年4月以降にJARTの個人情報変更をした方・今後変更される方は、お手数ですが事務局（下記アドレス）へ連絡をお願いいたします。皆様にはご不便おかけいたしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

office@fart.jp

福島県放射線技師会 総務企画委員 三浦 勉

編集後記

早いもので、もう3月となりました。寒さの残る日と春の気配を感じる日が交互に訪れる季節の変わり目で、年度末ということもあり何かと慌ただしく過ごしている方も多いのではないのでしょうか。そんな中でも2026年は世界的なスポーツ大会が1年を通して続く年であり、スポーツの話題が途切れることはありません。季節の移ろいととも、皆様が健やかに新年度を迎えられますようお願いしております。

（加藤）